

別 紙

(食農学類)

ペーパーインタビュー

注意事項

1. 試験開始まで、この冊子を開いてはいけません。
2. 試験終了後、この冊子は持ち帰ってください。

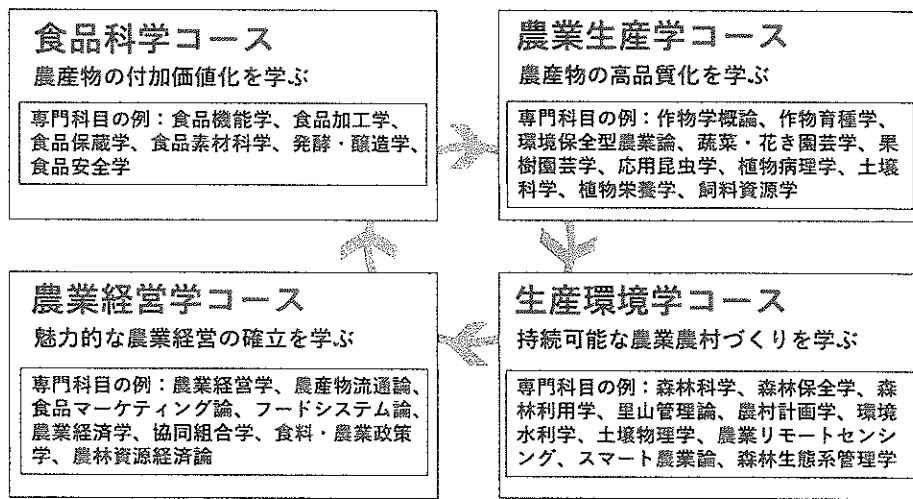


図 福島大学食農学類のコース編成と主要科目



ペーパーインタビュー

(食農学類)

試 験 科 目	ページ	解答用 紙枚数	時 間
ペーパーインタビュー	1～ 3	2 枚	90 分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. この問題冊子は3 ページある。印刷不鮮明の箇所などがある場合には、監督者に申し出ること。
3. 解答はすべて別紙の解答用紙に横書きで記入すること。
4. 解答用紙の指定欄には必ず受験番号を記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

ペーパーインタビュー

I あなたは本学類に入学して何を学びたいですか。以下の3点をすべて踏まえ、600字以内で詳しく書いてください。必要に応じて別紙を参照してください。

○いつ頃、どのようなことから、農学に関心をもつようになったか。

○これまで、農学への関心を深めるために何をしたか。

○なぜ本学類を選んだか。

Ⅱ

以下の文章を読んで、設問(1)～(3)に答えなさい。

昭和 25(1950)年頃から我が国の経済は復興の軌道に乗り、住宅建築等のための木材の需要は急速に増大し、木材価格も大幅に上昇した。一方、昭和 30 年代以降は、石油やガスへの燃料転換や化学肥料の使用が一般化したことに伴い、里山の広葉樹林等の天然林がそれまでのように薪炭用林や農用林として利用されなくなってきた。このような経済状況から、国内における木材の大幅な増産、そのための天然林の伐採と人工林化を望む声が大きくなった。

また、パルプ用材については、原料の大部分を占めていたマツ類の原木の調達が困難になっていたことを背景に、原料を広葉樹に転換するための設備投資が急速に行われたことにより、広葉樹の利用が後押しされた。このようにして里山の薪炭林や奥地の天然広葉樹林が伐採された跡地には、早期の森林回復と将来の高い収益を見込み、成長が早く建築用材等としての利用価値が高いスギ等の針葉樹を植栽する拡大造林が進展した。昭和 40 年代半ばまで、伐採跡地等においてスギを中心として毎年 40 万 ha 弱の造林が行われ、その後、拡大造林は急速に減少した。その要因としては、造林対象地が少なくなったこと、残っているのは権利関係が複雑で造林を進めにくい森林であったこと、外材輸入の増加等による木材価格の先行き不安、労賃や苗木代等の経費の増大などがあった。

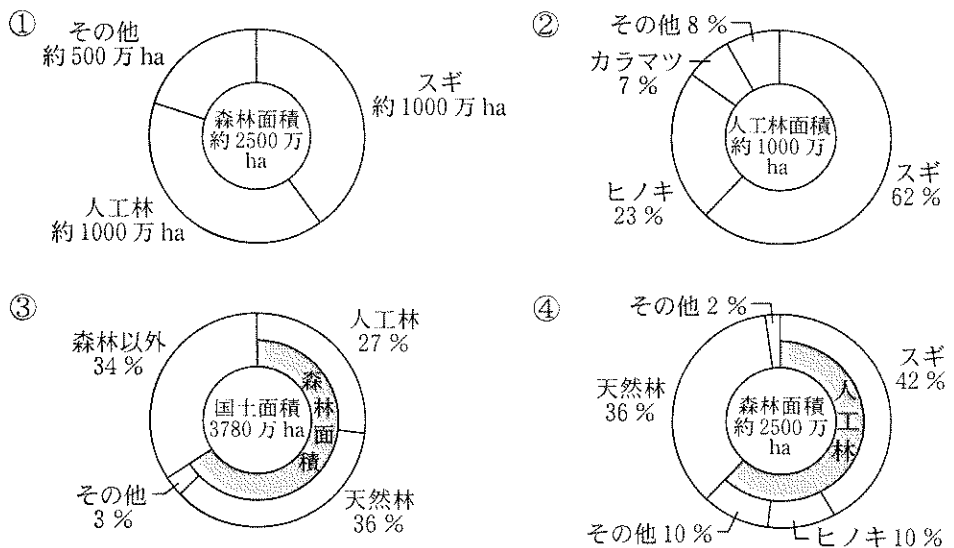
このように、昭和 20 年代後半から 40 年代にかけて集中的にスギ等の人工林が造成されたことにより、人工林面積は昭和 24(1949)年の約 500 万 ha から現状の約 1,000 万 ha までに達するとともに、スギはそのうちの約 4 割を占める主要林業樹種となった。

出典：林野庁「令和 5 年度森林・林業白書」5～6 頁を一部改変

(1) この文章に基づき、「拡大造林」の説明として正しいものに T、正しいとはいえないものに F と書きなさい。

- ① 拡大造林が行われたため、人工林の面積は昭和 24 年当時と比べて増加した。
- ② 拡大造林は、天然の広葉樹林とスギなどの針葉樹林から成る。
- ③ 拡大造林が昭和 40 年代半ば以降に急速に減少したのは、植栽されたスギが建築用材等として利用価値が高かったためである。

(2) 本文の下線の説明を参考に、日本の森林の現状を表した図として間違っているものを、下の①～④からすべて選びなさい。



(3) スギ等の人工林を拡大させてきた結果、人工林が成長するにつれてスギ花粉等によるアレルギー疾患が顕在化し、国民を悩ませる社会問題となっています。このように農林業や食に関わる社会問題の中から関心のある問題の一つを取り上げ、どのような問題なのかを説明し、その問題に対するあなたの意見を200字以内で述べなさい。

